

# 農業者アンケート結果

平成 29 年 10 月 20 日

糸島市 農業振興課

【調査概要】

実施時期 平成 29 年 7 月配布回収（8・9月集約・分析）  
 実施方法 農区長による区内農業者を対象とした配布・回収  
 対象件数 配布数 2,394 件（市内のすべての耕作農家）  
 回答結果 回答数 1,629 件（回答率：68.0% / 地区毎の内訳は下記のとおり）

【基本項目】

問 1 お住まいの農区はどこですか？

前原地区					西部(前原)地区					志摩地区										
概	農区名	人数	回収	回収率	概	農区名	人数	回収	回収率	概	農区名	人数	回収	回収率						
波多江	高田	9	7	78%	加布里	東	44	30	68%	可也	稲留	29	23	79%						
	池田	25	15	60%		神在	34	18	53%		吉田	49	42	86%						
	板持	16	5	31%		岩本	18	7	39%		井田原	46	39	85%						
	志登	19	14	74%		加布里	14	7	50%		松隈	15	14	93%						
	潤	20	13	65%		小計	110	62	56%		馬場	18	15	83%						
	波多江	41	32	78%	白糸	20	15	75%	津和崎		11	5	45%							
	小計	130	86	66%	川付	21	14	67%	初		18	9	50%							
	浦志	11	10	91%	長野	59	49	83%	師吉		32	27	84%							
前原	泊一	24	21	88%	飯原	68	47	69%	親山		22	15	68%							
	泊二	27	11	41%	本	49	35	71%	大塚		22	15	68%							
	泊三	12	9	75%	瀬戸	21	19	90%	小金丸西	30	27	90%								
	油比	14	14	100%	小計	238	179	75%	大石	7	7	100%								
	新田東	13	9	69%	西部(前原)地区合計	348	241	69%	小計	299	238	80%								
	新田西	4	3	75%	西部(二丈)地区	概	農区名	人数	回収	回収率	桜井	桜井東	36	22	61%					
	新田北	14	13	93%								川上	13	4	31%					
	前原東	6	1	17%								小計	71	34	48%					
	本町	9	7	78%								野北	久米	36	26	72%				
	西町	6	5	83%									松井	6	1	17%				
	北新地	10	8	80%									本村	17	10	59%				
	筒井町	12	10	83%									間少路	16	3	19%				
	荻浦	15	11	73%								小計	75	40	53%	引津	小富士	50	41	82%
	南風台	7	6	86%								小計	213	177	83%		御床	21	12	57%
雷	16	14	88%	深江								深江1	23	6	26%		松原	5	2	40%
高野	15	9	60%								鹿家	23	18	78%	東貝塚		22	15	68%	
高上	10	6	60%								吉井上	62	56	90%	西貝塚		12	11	92%	
山北	13	10	77%								吉井下	30	25	83%	寺山		27	18	67%	
三坂	26	0	0%								福井	29	25	86%	香月		14	14	100%	
香力	13	0	0%		大入	19	14	74%	久家	4	3	75%								
蔵持	21	6	29%	佐波	50	39	78%	船越	8	8	100%									
有田	14	11	79%	小計	78	33	42%	小計	163	124	76%									
平原	8	6	75%	一貴山	一貴山	27	18	67%	芥屋	新町	0	0	0%							
有田中央	14	9	64%		上深江	28	15	54%		岐志岡	21	18	86%							
富	8	4	50%		石崎	13	10	77%		岐志浜	9	0	0%							
多久	18	17	94%		満吉	22	21	95%		芥屋	49	30	61%							
篠原	22	19	86%		長石	11	11	100%		野辺・福の浦	13	11	85%							
小計	198	111	56%		波呂	5	1	20%		小計	92	59	64%							
瑞梅寺	32	17	53%		松国	14	11	79%		志摩地区合計	700	495	71%							
井原	97	53	55%		武	10	10	100%												
三雲	63	39	62%		田中	13	9	69%												
曾根	7	0	0%		浜窪	10	10	100%												
井田	19	16	84%	小計	153	116	76%													
高来寺	5	5	100%	西部(二丈)地区合計	444	326	73%													
大門	22	10	45%	西部(前原)地区合計	792	567	72%													
高祖	49	21	43%	糸島市内の内訳	地区名等	人数	回収	回収率												
末永	32	24	75%		前原地区	902	534	59%												
西堂	25	14	56%		西部地区	792	567	72%												
王丸	9	0	0%		志摩地区	700	495	71%												
川原	30	0	0%		地区未記入		33													
小計	390	199	51%		合計	2,394	1,629	68%												
前原地区合計	902	534	59%																	



## 問2 あなたの世帯の農業経営の種類は何ですか？（複数回答可）

区分 作目	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
水 稲	1,029	63.2%	252	69.2%	19	43.2%	415	69.3%	299	58.2%	44	40.7%
露地野菜	533	32.7%	109	29.9%	20	45.5%	257	42.9%	131	25.5%	16	14.8%
施設野菜	255	15.7%	126	34.6%	8	18.2%	114	19.0%	3	0.6%	4	3.7%
露地果樹	144	8.8%	27	7.4%	6	13.6%	69	11.5%	38	7.4%	4	3.7%
施設果樹	45	2.8%	19	5.2%	3	6.8%	19	3.2%	4	0.8%	0	0.0%
露地花き	64	3.9%	16	4.4%	2	4.5%	39	6.5%	5	1.0%	2	1.9%
施設花き	69	4.2%	36	9.9%	2	4.5%	29	4.8%	1	0.2%	1	0.9%
酪 農	22	1.4%	19	5.2%	1	2.3%	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%
肉 用 牛	7	0.4%	5	1.4%	0	0.0%	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%
養 豚	5	0.3%	5	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
養 鶏	6	0.4%	2	0.5%	0	0.0%	4	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
そ の 他	141	8.7%	16	4.4%	1	2.3%	9	1.5%	97	18.9%	18	16.7%
未 記 入	51	3.1%	1	0.3%	1	2.3%	0	0.0%	30	5.8%	19	17.6%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	

全体では、「水稲」が最も多く、回答者の63.2%が作付けをしている。次いで「露地野菜」「施設野菜」「露地果樹」の順となっている。

認定農業者は、全体の22.3%【問4参照】を占めており、園芸を営む農家が多く「施設栽培」の比率が高い。また「酪農」や「肉用牛」などの畜産経営は、ほとんどが認定農業者である。

新規就農者は、全体の2.7%。「水稲」が他の農家区分と比べて少なく「露地野菜」の比率が高い。

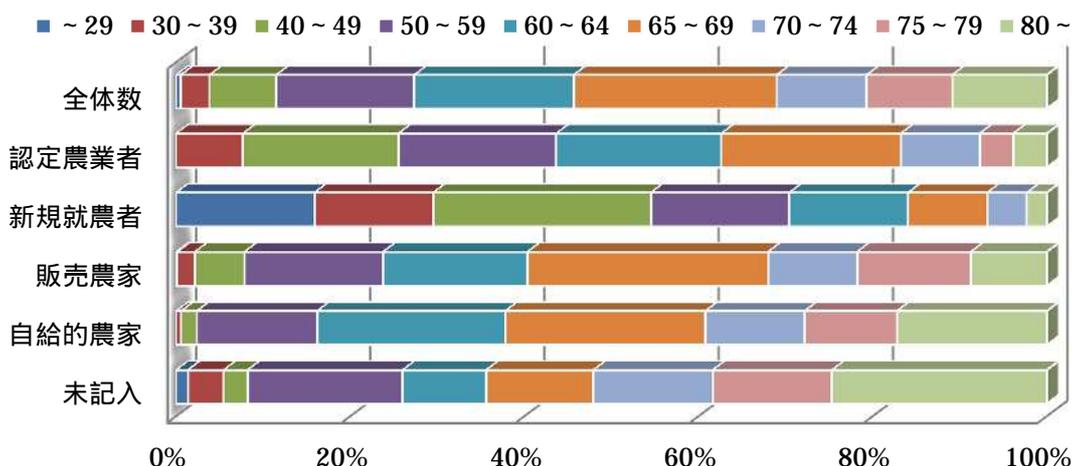
販売農家（認定農業者と新規就農者を除く。）は、全体の36.8%で、全体に占める割合が最も大きい。小規模農家が多いが、認定農業者になっていない大規模農家も含まれている。

自給的農家は、全体の31.6%。「その他」が多く、記入欄に貸付と遊休農地の記載が目立った。

## 問3 あなたの世帯の農業の主たる経営者の年齢はどれですか？（1つに）

区分 年齢階層	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	人数	比率										
29歳以下	9	0.6%	0	0.0%	7	15.9%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.9%
30歳～39歳	52	3.2%	28	7.7%	6	13.6%	12	2.0%	3	0.6%	3	2.8%
40歳～49歳	121	7.4%	65	17.9%	11	25.0%	34	5.7%	9	1.8%	2	1.9%
50歳～59歳	250	15.3%	66	18.1%	7	15.9%	95	15.9%	69	13.4%	13	12.0%
60歳～64歳	289	17.7%	69	19.0%	6	13.6%	99	16.5%	108	21.0%	7	6.5%
65歳～69歳	368	22.6%	75	20.6%	4	9.1%	165	27.5%	115	22.4%	9	8.3%
70歳～74歳	163	10.0%	33	9.1%	2	4.5%	61	10.2%	57	11.1%	10	9.3%
75歳～79歳	155	9.5%	14	3.8%	0	0.0%	78	13.0%	53	10.3%	10	9.3%
80歳以上	171	10.5%	14	3.8%	1	2.3%	52	8.7%	86	16.7%	18	16.7%
未 記 入	51	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.3%	14	2.7%	35	32.4%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	
平均年齢	64.7歳		59.2歳		48.6歳		65.8歳		68.3歳		68.0歳	

平均年齢は、年齢階層の中間値(ただし29歳未満は25歳、80歳以上は85歳)に該当階層の比率を乗じて算定。(未記入を除く)



全体では、60歳以上の高齢者が1,152人で70.7%を占めており、中でも「65歳～69歳」が最も多い。「80歳以上」も1割以上おり、高齢化している状況が分かる。全農業者の平均年齢は64.7歳と推定している。

認定農業者は、59.2歳と推定しており、平均以下である。

新規就農者は、48.6歳と他の区分に比べて若い農業者が多い。ただ、退職後の就農等もあり、一般的なイメージよりも年齢が高い。

販売農家は65.8歳、自給的農家は68.3歳と推定。販売農家と自給的農家の数が全体の3分の2以上(68.3%)いることから、平均年齢を押し上げる要因になっている。

#### 問4 あなたは下記のどの農業者に該当しますか？(1つに )

項目	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
農家区分	1,629		364	22.3%	44	2.7%	599	36.8%	514	31.6%	108	6.6%

#### 問5 あなたの世帯は何人(雇業者除く)で経営していますか？(1つに )

項目	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1人	346	21.2%	32	8.8%	14	31.8%	110	18.4%	175	34.0%	15	13.9%
2人	637	39.1%	132	36.3%	20	45.5%	298	49.7%	170	33.1%	17	15.7%
3人	265	16.3%	100	27.5%	3	6.8%	98	16.4%	55	10.7%	9	8.3%
4人	221	13.6%	86	23.6%	4	9.1%	71	11.9%	54	10.5%	6	5.6%
未記入	160	9.8%	14	3.8%	3	6.8%	22	3.7%	60	11.7%	61	56.5%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	
平均人数	2.0人		2.6人		1.8人		2.1人		1.7人		0.9人	

平均人数は、項目の人数を各区分の件数に乘じ、未記入を除く回答者数で除して算定。

全体では、「2人」が最も多く39.1%で、次いで「1人」「3人」「4人」の順となっている。平均は2.0人である。

認定農業者は、基本的に経営規模が大きい「2人」以上が87.4%で平均は2.6人となっている。

新規就農者は、若い世代、独身者が多いため「1人」「2人」が77.3%を占める。平均は、1.8人である。

販売農家は「2人」が半数を占め、平均は2.1人である。

自給的農家は、高齢化が最も進んでいる農家区分であり、販売を伴う農業経営をしていないため、1.7人と少ない。

問6 あなたの世帯の農産物の年間販売額はいくらですか？(1つに )

年間販売額の階層	区分		全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
販売なし	414	25.4%	12	3.3%	4	9.1%	9	1.5%	359	69.8%	30	27.8%		
50万円未満	212	13.0%	18	4.9%	8	18.2%	94	15.7%	80	15.6%	12	11.1%		
50万円以上 100万円未満	162	9.9%	13	3.6%	3	6.8%	115	19.2%	21	4.1%	10	9.3%		
100万円以上 200万円未満	155	9.5%	18	4.9%	7	15.9%	119	19.9%	8	1.6%	3	2.8%		
200万円以上 300万円未満	81	5.0%	13	3.6%	1	2.3%	60	10.0%	2	0.4%	5	4.6%		
300万円以上 500万円未満	86	5.3%	18	4.9%	5	11.4%	60	10.0%	2	0.4%	1	0.9%		
500万円以上 700万円未満	55	3.4%	19	5.2%	4	9.1%	30	5.0%	0	0.0%	2	1.9%		
700万円以上 1000万円未満	75	4.6%	35	9.6%	4	9.1%	35	5.8%	1	0.2%	0	0.0%		
1000万円以上 1500万円未満	85	5.2%	56	15.4%	1	2.3%	26	4.3%	1	0.2%	1	0.9%		
1500万円以上 2000万円未満	51	3.1%	40	11.0%	0	0.0%	11	1.8%	0	0.0%	0	0.0%		
2000万円以上 3000万円未満	52	3.2%	44	12.1%	1	2.3%	7	1.2%	0	0.0%	0	0.0%		
3000万円以上 5000万円未満	37	2.3%	32	8.8%	1	2.3%	4	0.7%	0	0.0%	0	0.0%		
5000万円以上 1億円未満	20	1.2%	18	4.9%	0	0.0%	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%		
1億円以上 3億円未満	8	0.5%	7	1.9%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%		
3億円以上	2	0.1%	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
未記入	134	8.2%	19	5.2%	5	11.4%	26	4.3%	40	7.8%	44	40.7%		
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108			
平均販売額	666万円		2,127万円		443万円		403万円		17万円		88万円			

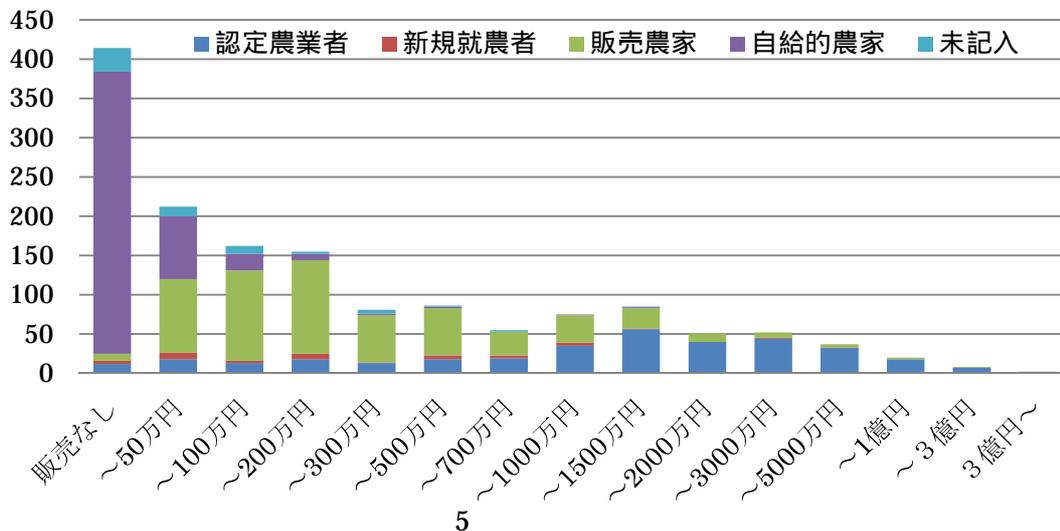
平均販売額は階層の中間値(ただし販売なしは0円、50万円未満は25万円、3億円以上は3億円)の加重平均で算定(未記入を除く)。

認定農業者

新規就農者

販売農家

自給的農家



全体では、「販売なし」が25.4%で最も多く「50万円未満」から金額が上がるにつれて、ほぼ農家数は減少している。農産物の平均販売額は666万円（推計）

認定農業者は、1,000万円以上が5割以上おり、1億円以上も2.4%いる。平均販売額は、全体の3.2倍に当たる2,127万円（推計）となっている。

新規就農者は、多い順に「50万円未満」「100万円以上200万円未満」「300万円以上500万円未満」で、平均販売額は443万円（推計）

販売農家は「50万円未満」から「300万円以上500万円未満」までに74.5%が集中しており、4人に3人が500万円未満ということになる。平均販売額は403万円で、新規就農者よりも40万円少ない。

自給的農家の「50万円未満」から「1000万円以上1500万円未満」までに115人が回答しているが、本来は販売農家等に入るものと推察する。

### 直売所に出荷されている場合、その年間販売額はいくらですか？

年間販売額の階層	区分		全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
直売所販売人数	474	29.1%	130	35.7%	18	40.9%	269	44.9%	44	8.6%	13	12.0%		
未記入	1,155	70.9%	234	64.3%	26	59.1%	330	55.1%	470	91.4%	95	88.0%		
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108			
直売所の平均販売額	243万円		390万円		172万円		210万円		63万円		147万円			

直売所の平均販売額は、販売金額を記載した474人のデータを基本に平均金額を算定。

問6の販売している農家のうち、直売所に出荷している農家は474人で、全体の29.1%を占める。農家区分では、販売農家、新規就農者、認定農業者の順に多い。

販売額でみると、平均販売額は243万円となっており、全体平均販売額666万円の36.6%が直売所に出荷していることになる。農家区分では、認定農業者、販売農家、新規就農者の順となる。

いずれの農家数、販売額からみても、直売所は農家にとっての重要な販売先となっていることが分かる。

自給的農家44人分の数字は、販売農家等に含まれると推察する。

### 問7 あなたが農業経営している農地は、下記のどれですか？（1つに）

経営農地	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
自分の農地と借地	554	34.0%	240	65.9%	10	22.7%	246	41.1%	47	9.1%	11	10.2%
自分の農地のみ	867	53.2%	105	28.8%	17	38.6%	323	53.9%	383	74.5%	39	36.1%
借地した農地のみ	58	3.6%	9	2.5%	15	34.1%	14	2.3%	17	3.3%	3	2.8%
その他	35	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.3%	28	5.4%	5	4.6%
未記入	115	7.1%	10	2.7%	2	4.5%	14	2.3%	39	7.6%	50	46.3%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	

経営のための農地（所有地・借地）についての問いであるが、最も多いのが「自分の農地のみ」53.2%。次いで「自分の農地と借地」34.0%となっている。

認定農業者は、おおむね3分の2に当たる65.9%の農家が「自分の農地と借地」と回答しており、他の農家区分の中で最も高い。

新規就農者は「借地した農地のみ」が34.1%と突出して高く、全体3.6%の約10倍となっている。新規参加者の数字が反映されたことがうかがえる。

販売農家は、「自分の農地と借地」41.1%「自分の農地のみ」53.9%となっており、借地を

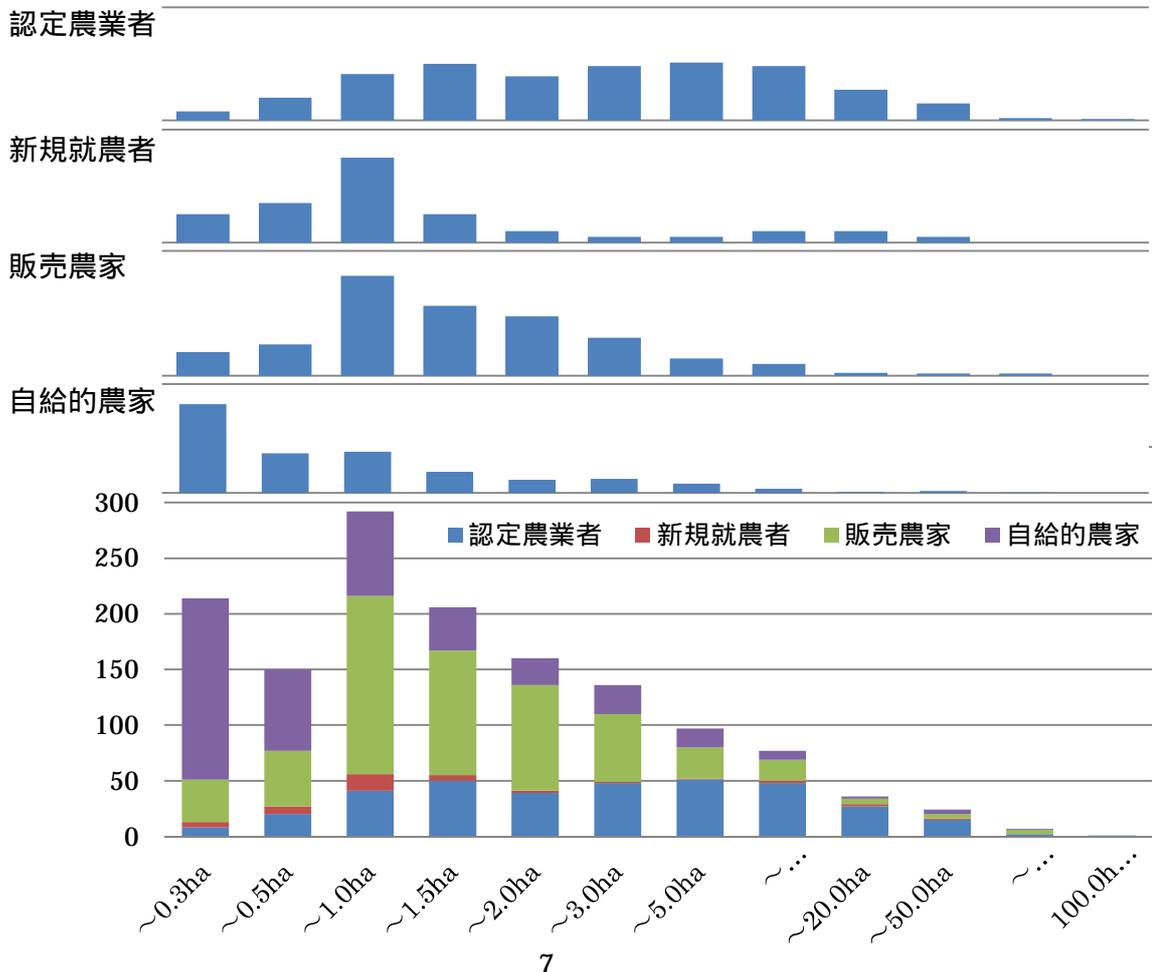
せずに経営している農家が多い。

自給的農家については「自分の農地のみ」が74.5%と他の農家区分と比較して最も高い数字である。

問8 あなたの世帯の経営耕地面積を教えてください(1つに )

経営面積の階層	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率										
0.3ha 未満	224	13.8%	8	2.2%	5	11.4%	38	6.3%	163	31.7%	10	9.3%
0.3ha 以上 0.5ha 未満	160	9.8%	20	5.5%	7	15.9%	50	8.3%	73	14.2%	10	9.3%
0.5ha 以上 1.0ha 未満	302	18.5%	41	11.3%	15	34.1%	160	26.7%	76	14.8%	10	9.3%
1.0ha 以上 1.5ha 未満	212	13.0%	50	13.7%	5	11.4%	112	18.7%	39	7.6%	6	5.6%
1.5ha 以上 2.0ha 未満	164	10.1%	39	10.7%	2	4.5%	95	15.9%	24	4.7%	4	3.7%
2.0ha 以上 3.0ha 未満	139	8.5%	48	13.2%	1	2.3%	61	10.2%	26	5.1%	3	2.8%
3.0ha 以上 5.0ha 未満	102	6.3%	51	14.0%	1	2.3%	28	4.7%	17	3.3%	5	4.6%
5.0ha 以上 10.0ha 未満	78	4.8%	48	13.2%	2	4.5%	19	3.2%	8	1.6%	1	0.9%
10.0ha 以上 20.0ha 未満	36	2.2%	27	7.4%	2	4.5%	5	0.8%	2	0.4%	0	0.0%
20.0ha 以上 50.0ha 未満	24	1.5%	15	4.1%	1	2.3%	4	0.7%	4	0.8%	0	0.0%
50.0ha 以上 100.0ha 未満	7	0.4%	2	0.5%	0	0.0%	4	0.7%	1	0.2%	0	0.0%
100.0ha 以上	2	0.1%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%
未記入	179	11.0%	14	3.8%	3	6.8%	23	3.8%	81	15.8%	58	53.7%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	
平均経営面積	3.1ha		6.0ha		2.8ha		2.4ha		1.5ha		3.3ha	

平均経営面積は階層の中間値(ただし、0.3ha 未満は 0.15ha、100ha 以上は 100ha)の加重平均で算定(未記入を除く)。



全体では、5 ha 未満が 80% を占め、推定で平均経営面積は 3.1ha となっている。

認定農業者は、平均経営面積が 6.0ha (推定) で、全体の約 2 倍。「3.0ha 以上 5.0ha 未満」が最も多い。また「0.5ha 以上 10.0ha 未満」に全体の 76.1% が集中している。

新規就農者は、平均経営面積(推定)が 2.8ha。「0.5ha 以上 1.0ha 未満」が 34.1% で、3 人に 1 人がこの区分に入る。推定は、中間値を取っているが、44 人とデータが少ないため、広い面積区分の数値が全体に大きく影響しており、現実はずっと少ない数値となる可能性が高い。



販売農家は、「0.5ha 以上 1.0ha 未満」が 26.6% で最も多く、平均経営面積(推定)は 2.4ha。

自給的農家は、平均経営面積(推定) 1.5ha となっており、1 ha 未満が全体の約 6 割を占める。

### 問9 あなたには、農業後継者がいますか？(1つに )

区分	全体数		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
後継者あり	399	24.5%	145	39.8%	4	9.1%	156	26.0%	81	15.8%	13	12.0%
後継者なし	1,179	72.4%	219	60.2%	40	90.9%	441	73.6%	419	81.5%	60	55.6%
未記入	51	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.3%	14	2.7%	35	32.4%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	

全体では、「後継者あり」が 24.5% で、4 人に 1 人の割合で後継者がいると回答している。農家区分の比率でみると、認定農業者、販売農家、自給的農家、新規就農者の順となっているが、新規就農者の後継者はわずか 4 人である。

### 農業後継者がいる人の年齢区分の内訳

区分	全体数		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
29 歳以下	1	0.3%			0	0.0%	0	0.0%			1	7.7%
30 歳～39 歳	13	3.3%	9	6.2%	1	25.0%	2	1.3%	0	0.0%	1	7.7%
40 歳～49 歳	29	7.3%	17	11.7%	0	0.0%	10	6.4%	2	2.5%	0	0.0%
50 歳～59 歳	51	12.8%	19	13.1%	0	0.0%	21	13.5%	9	11.1%	2	15.4%
60 歳～64 歳	72	18.0%	35	24.1%	0	0.0%	18	11.5%	18	22.2%	1	7.7%
65 歳～69 歳	105	26.3%	37	25.5%	1	25.0%	49	31.4%	16	19.8%	2	15.4%
70 歳～74 歳	46	11.5%	19	13.1%	2	50.0%	15	9.6%	8	9.9%	2	15.4%
75 歳～79 歳	43	10.8%	4	2.8%			25	16.0%	12	14.8%	2	15.4%
80 歳以上	39	9.8%	5	3.4%	0	0.0%	16	10.3%	16	19.8%	2	15.4%
回答者総数	399		145		4		156		81		13	

後継者がいる親の年齢の問いであるが、認定農業者は、「後継者あり」と回答した人が最も高く、45 歳以上 74 歳未満の年代に 75.8% が集中している。

新規就農者は、「70 歳～74 歳」が 2 人(50%) で、「30 歳～39 歳」「65 歳～69 歳」でそれぞれ 1 人(25%) となっている。

販売農家と自給的農家は、「75 歳～79 歳」にそれぞれ 16.0%、14.8% おり、認定農業者の数字を大きく上回る。

「いる」場合、その後継者は、現在どういう状況ですか？(1つに )

後継者の状況	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率										
既に就農	129	32.3%	88	60.7%	1	25.0%	33	21.2%	6	7.4%	1	7.7%
就農予定	34	8.5%	11	7.6%	1	25.0%	16	10.3%	5	6.2%	1	7.7%
退職後就農	130	32.6%	13	9.0%	0	0.0%	64	41.0%	50	61.7%	3	23.1%
就農を期待	96	24.1%	30	20.7%	2	50.0%	43	27.6%	16	19.8%	5	38.5%
未記入	10	2.5%	3	2.1%	0	0.0%	2	1.3%	4	4.9%	3	23.1%
回答者総数	399		145		4		156		81		13	
後継者平均年齢	38.6歳		34.3歳		35.0歳		40.0歳		43.1歳		42.5歳	

後継者の平均年齢は、記載された後継者年齢の平均。

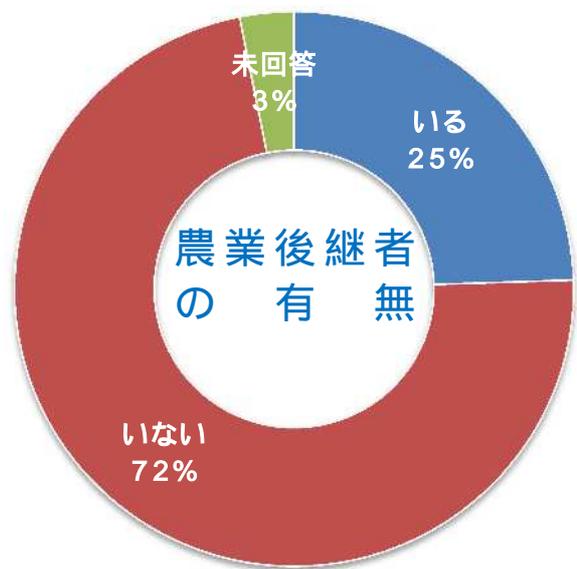
後継者が「既に就農」と答えた人は全体の32.3%。次いで、「退職後就農」32.6%となっている。「就農を期待」が24.1%で4分の1ほどいるが、就農への親の期待はあるものの、子どもたちの将来がまだはっきりしていない状況が見える。

認定農業者については、60.7%が「既に就農」、7.6%が「就農予定」である。

新規就農者は、半分が「就農を期待」。

販売農家と自給的農家は、「退職後就農」が最も多いのが特徴で、それぞれ41.0%、61.7%が回答している。

後継者の平均年齢は、38.6歳と推定している。



【あなたの農業経営について】

問10 今後、あなたの世帯の農業経営をどうしたいですか？(1つに )

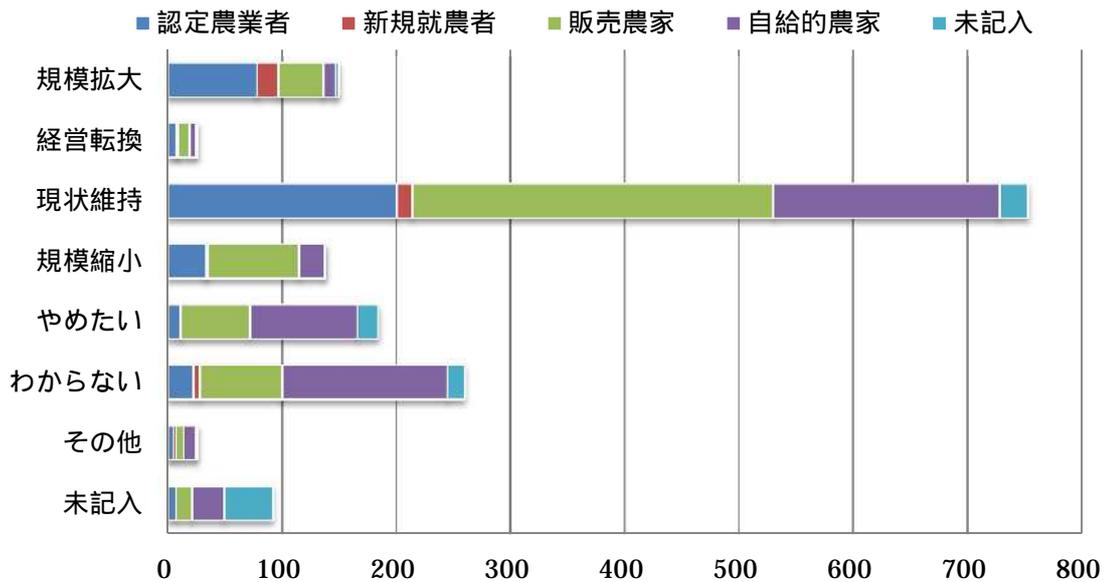
経営の意向	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
規模拡大	150	9.2%	78	21.4%	19	43.2%	39	6.5%	11	2.1%	3	2.8%
経営転換	26	1.6%	8	2.2%	1	2.3%	10	1.7%	6	1.2%	1	0.9%
現状維持	753	46.2%	200	54.9%	14	31.8%	316	52.8%	198	38.5%	25	23.1%
規模縮小	138	8.5%	33	9.1%	2	4.5%	80	13.4%	22	4.3%	1	0.9%
やめたい	184	11.3%	11	3.0%	0	0.0%	61	10.2%	94	18.3%	18	16.7%
わからない	260	16.0%	22	6.0%	6	13.6%	72	12.0%	145	28.2%	15	13.9%
その他	26	1.6%	5	1.4%	2	4.5%	7	1.2%	10	1.9%	2	1.9%
未記入	92	5.6%	7	1.9%	0	0.0%	14	2.3%	28	5.4%	43	39.8%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	

【「その他」の主な記載】

- ・農業法人による、グループ営農
- ・会社定年後の仕事として就農
- ・自分が出来るだけ続け、後に継ぐ
- ・管理農地
- ・自然消滅

- ・借り手がいれば貸したい
- ・時期を見て後継者を探す
- ・後継者に経営を譲る
- ・収益改善したい
- ・現状維持から、縮小、耕作放棄

- ・地域の担い手として活動する
- ・どうもしたくない
- ・耕作を依頼している
- ・農業機械が古くなったらやめる
- ・田は貸付、畑は自家菜園

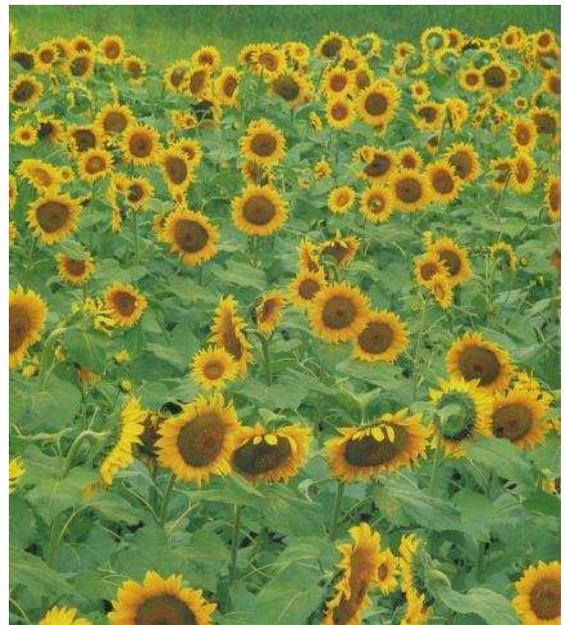


発展派は「規模拡大」「経営転換」の10.8%、「現状維持」派は46.2%、消極派は「規模縮小」「やめたい」19.8%となっている。このまま何も対策を打たないと、農家数が減少していくことを示している。

「規模拡大」「経営転換」の農業者は、新規就農者45.5%、認定農業者23.6%と多い。また、「現状維持」は全農家区分の第1位となっており、特に認定農業者と販売農家では50%を超えている。

「規模縮小」は販売農家に多いため、いずれ「自給的農家」に移行すると予測できる。

「やめたい」のほとんどは、自給的農家、販売農家である。現実的にそうなると、特に条件不利地は耕作放棄地となる可能性が高い。



#### 問10の回答「規模拡大」を行う時期は、いつぐらいからですか？(1つに )

区分	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1年～3年	83	55.3%	50	64.1%	14	73.7%	15	38.5%	4	36.4%	0	0.0%
5年程度先	32	21.3%	15	19.2%	2	10.5%	11	28.2%	4	36.4%	0	0.0%
10年程度先	4	2.7%	2	2.6%	1	5.3%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
分からない	20	13.3%	8	10.3%	2	10.5%	8	20.5%	2	18.2%	0	0.0%
未記入	11	7.3%	3	3.8%	0	0.0%	4	10.3%	1	9.1%	3	100.0%
回答者総数	150		78		19		39		11		3	

全体では「規模拡大」を望む人の半数以上(55.3%)が「1年～3年」と回答している。特に、新規就農者は、早期の経営確立のためにその傾向が顕著に出ており、73.7%と高い。認定農業者についても、64.1%と早期の規模拡大を望む割合が高い。

次いで「5年程度先」「10年程度先」の順となっている。

「規模を拡大したい」場合、新たに、田や畑、樹園地、ハウスがどのくらい必要ですか？該当するものを選んでください。（該当するものに）

区分 拡大面積		全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
		件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
田	50a 未満	20	13.3%	9	11.5%	3	15.8%	2	5.1%	4	36.4%	2	66.7%
	～ 1ha 未満	23	15.3%	13	16.7%	1	5.3%	6	15.4%	3	27.3%	0	0.0%
	1ha 以上	51	34.0%	31	39.7%	3	15.8%	14	35.9%	2	18.2%	1	33.3%
畑	50a 未満	23	15.3%	10	12.8%	5	26.3%	4	10.3%	4	36.4%	0	0.0%
	～ 1ha 未満	11	7.3%	6	7.7%	3	15.8%	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%
	1ha 以上	8	5.3%	6	7.7%	0	0.0%	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%
樹園地	50a 未満	4	2.7%	1	1.3%	0	0.0%	3	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
	～ 1ha 未満	4	2.7%	2	2.6%	1	5.3%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
	1ha 以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ハウス	50a 未満	20	13.3%	9	11.5%	4	21.1%	6	15.4%	1	9.1%	0	0.0%
	～ 1ha 未満	19	12.7%	9	11.5%	4	21.1%	6	15.4%	0	0.0%	0	0.0%
	1ha 以上	8	5.3%	6	7.7%	0	0.0%	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%
未記入		11	7.3%	6	7.7%	1	5.3%	4	10.3%	0	0.0%	0	0.0%
回答者総数		150		78		19		39		11		3	

全体では「田」が62.6%、「畑」が27.9%、「樹園地」が5.4%、「ハウス」が31.3%となっている。

規模別で多いのは、「田」が「1ha 以上」、「畑」が「50a 未満」、「樹園地」が同数で「50a 未満」、「～ 1ha 未満」、「ハウス」が「50a 未満」という状況であり、どの農家区分も同様の傾向であった。



「規模を拡大したい」または「経営を転換したい」場合、どのような問題がありますか？（複数回答可）

区分 拡大・転換の問題点		全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
		件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
農地確保ができない		81	46.0%	46	53.5%	9	45.0%	23	46.9%	2	11.8%	1	25.0%
農地が集積できない		43	24.4%	22	25.6%	6	30.0%	14	28.6%	0	0.0%	1	25.0%
資金が不足している		73	41.5%	29	33.7%	13	65.0%	22	44.9%	8	47.1%	1	25.0%
農業後継者がいない		20	11.4%	3	3.5%	0	0.0%	10	20.4%	6	35.3%	1	25.0%
雇用が確保できない		33	18.8%	20	23.3%	5	25.0%	6	12.2%	2	11.8%	0	0.0%
生産技術が伴わない		26	14.8%	10	11.6%	6	30.0%	6	12.2%	4	23.5%	0	0.0%
情報が把握できない		16	9.1%	8	9.3%	0	0.0%	5	10.2%	3	17.6%	0	0.0%
相談相手がない		8	4.5%	1	1.2%	1	5.0%	5	10.2%	1	5.9%	0	0.0%
その他		9	5.1%	2	2.3%	0	0.0%	5	10.2%	2	11.8%	0	0.0%
未記入		13	7.4%	6	7.0%	0	0.0%	4	8.2%	2	11.8%	1	25.0%
回答者総数		176		86		20		49		17		4	
内規模拡大		150		78		19		39		11		3	
内経営転換		26		8		1		10		6		1	

【「その他」の主な記載】

- ・水（井戸）の確保
- ・施設の確保（借用）が難しい
- ・競合者が多い

- ・販路がない
- ・農業用機械が高額で買えない
- ・施設が高額で建てられない

- ・集落の共有設備（水路、石垣）の老朽化維持の為人不足
- ・先のことはわからない

農業経営の発展派の問題点としては、「農地が確保できない」「資金が不足している」が40%を超えており、「農地が集積できない」「雇用が確保できない」「生産技術が伴わない」と続く。

認定農業者は、上記と同様の順となっている。

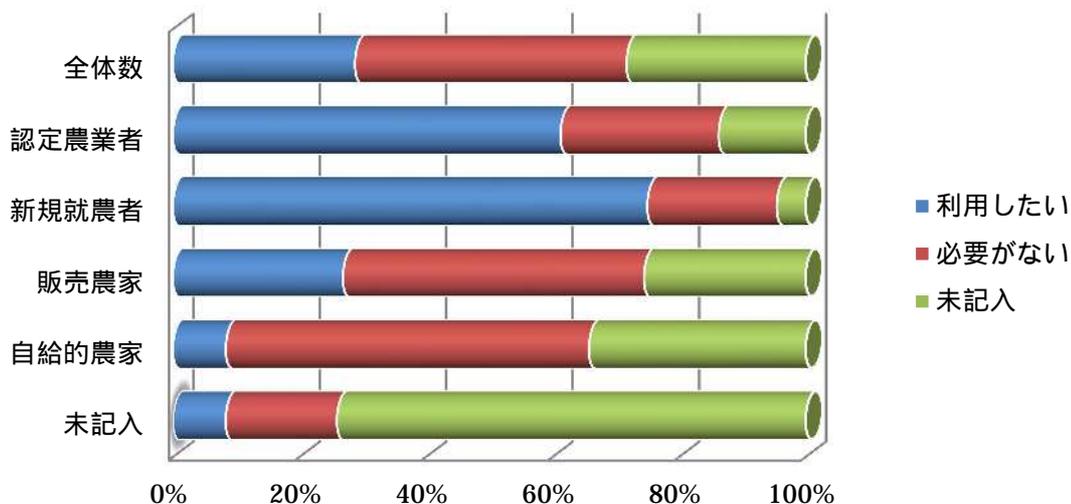
新規就農者では、第1位は「資金が不足している」で、65.0%と全体の数字を大きく上回る。また、「生産技術が伴わない」との回答も30.0%と多い。

自給的農家は、「資金が不足している」が最も高く、施設・設備、農業機械の更新などの資金に困っている状況がうかがえる。



問11 あなたは、機械や施設などの整備や6次産業化による新商品などを開発するとき、補助事業を利用したいですか？(1つに )

区分	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
利用したい	469	28.8%	223	61.3%	33	75.0%	161	26.9%	43	8.4%	9	8.3%
必要がない	699	42.9%	91	25.0%	9	20.5%	285	47.6%	295	57.4%	19	17.6%
未記入	461	28.3%	50	13.7%	2	4.5%	153	25.5%	176	34.2%	80	74.1%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	



補助事業の利用意向についての問いに対しては、「利用したい」が28.8%、「必要がない」が42.9%となっている。

「利用したい」人は469人おり、新規就農者が75.0%、認定農業者が61.3%と高い数字となっている。また、販売農家についても、26.9%と4人に1人以上は補助事業の利用を望んでいる。

「必要がない」と回答した人は、問9の後継者問題、問10の今後の農業経営方針が大きく影響していると推察できる。



「利用したい」場合、補助事業の問題点は何ですか？（複数回答可）

区分 補助の問題点	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
補助率が低い	175	37.3%	98	43.9%	9	27.3%	57	35.4%	11	25.6%	0	0.0%
補助額が低い	116	24.7%	53	23.8%	11	33.3%	45	28.0%	6	14.0%	1	11.1%
要件が厳しい	157	33.5%	62	27.8%	12	36.4%	70	43.5%	12	27.9%	1	11.1%
制約が多い	167	35.6%	86	38.6%	11	33.3%	57	35.4%	11	25.6%	2	22.2%
手続きが煩雑	94	20.0%	43	19.3%	6	18.2%	35	21.7%	9	20.9%	1	11.1%
メニューがない	42	9.0%	26	11.7%	3	9.1%	8	5.0%	3	7.0%	2	22.2%
その他	22	4.7%	8	3.6%	4	12.1%	5	3.1%	5	11.6%	0	0.0%
未記入	60	12.8%	26	11.7%	2	6.1%	17	10.6%	11	25.6%	4	44.4%
回答者総数	469		223		33		161		43		9	
【「その他」の主な記載】	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業の対象基準等を多様化し、いろいろな人が受けられる多彩な基準パターンがあってよいはず</li> <li>認定農業者以外への補助事業</li> <li>補助事業の種類が分からない</li> <li>補助事業の内容が分からない</li> <li>施設への補助率のアップ</li> <li>長期償還を希望</li> <li>相談者がいない</li> </ul>											

補助金については、多くの不満があるようで、全体では「補助率が低い」「制約が多い」「要件が厳しい」が3人に1人以上が回答している。次いで、「補助額が低い」「手続きが煩雑」と続く。

認定農業者では、「補助率が低い」が43.9%で最も高いが、他の農家区分では「要件が厳しい」がトップである。

また、「メニューがない」と回答した人が9.0%おり、下記の（希望）や自由意見の中から把握する必要がある。

利用したい場合、どのような補助事業があったらよいか（希望）

<ul style="list-style-type: none"> <li>兼業農家（認定農業者以外）も申請出来る補助事業</li> <li>兼業農家（小規模農家）向けの要件が厳しくない機械の助成など</li> <li>10年以上の長期返済が可能なもの</li> <li>猪対策の柵設置費用の補助</li> <li>花き、野菜農家が助かるような事業</li> <li>わかりやすい補助事業の説明会等</li> <li>農家民泊の整備費用等の補助</li> <li>農業用倉庫、作業場のリフォーム、断熱にも使えるような補助事業</li> <li>田（農地）の購入</li> <li>面積の拡大をしなくても収入UPを目指す場合の資金援助</li> <li>利用時間・面積に対する収入見込の算定。現在の面積拡大に対しての補助には無理がある</li> <li>農振地以外でも対象となる補助事業</li> <li>青年農業者が利用しやすい事業</li> <li>認定農業者の後継者が就農する場合、資金面で活用できる補助事業がない。新規就農者だけでなく担い手となる若者にも支援してほしい</li> <li>機械購入時の面積の上限を下げる</li> <li>資金補助</li> <li>いつでも利用できる半額補助事業</li> <li>農産物が安い時受けられる価格・収入補助</li> <li>全額補助</li> <li>暖房機等の1/2助成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国庫同様、5割補助以上、上限なし</li> <li>経営規模または、拡大規模に見合う農機具更新・購入補助</li> <li>長期間使用した農地の改良や施設の再整備</li> <li>インプレメントの補助</li> <li>農業経営学習のための費用補助</li> <li>6次産業化の加工、販売施設整備</li> <li>新規就農者向けの施設等リース事業</li> <li>新規就農者向けのトラクター等、農機に対するもの（機械、施設、資金）</li> <li>規模（面積等）に応じた指導、提案者（営農相談者）による支援</li> <li>家畜の糞尿の堆肥化のために、大幅な補助事業が必要と思う</li> <li>国や県の補助で新規取組に対し、市は自己負担分を助成してほしい</li> <li>県単事業など、2回目も同じ機械の導入を（1/3補助等で）認めてほしい</li> <li>補助率を（70%に）上げてほしい</li> <li>無金利</li> <li>被覆資材（硬質ビニール）の張り替えなど、ハウスのメンテナンス</li> <li>苗、苗木等の購入金額の補助</li> <li>研究所などの関係機関の協力</li> <li>自分の所有農地の改良に制約（許可が必要）をすることをやめてほしい</li> </ul>
--	--

問12 次の市の補助メニューを知っていますか？(1・2 どちらかに )

・糸島市新たな担い手就農支援事業

退職後就農者など(認定農業者以外)への機械等の整備補助

区分	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
知っている	565	34.7%	173	47.5%	22	50.0%	234	39.1%	123	23.9%	13	12.0%
知らない	681	41.8%	133	36.5%	17	38.6%	255	42.6%	246	47.9%	30	27.8%
未記入	383	23.5%	58	15.9%	5	11.4%	110	18.4%	145	28.2%	65	60.2%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	

・糸島市新規就農者定着支援事業

認定新規就農者の雇用賃金や借地料などの費用補助

区分	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
知っている	554	34.0%	185	50.8%	26	59.1%	217	36.2%	115	22.4%	11	10.2%
知らない	679	41.7%	123	33.8%	14	31.8%	263	43.9%	248	48.2%	31	28.7%
未記入	396	24.3%	56	15.4%	4	9.1%	119	19.9%	151	29.4%	66	61.1%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	

・糸島市農村地域活性化事業

認定農業者の経営改善などを目的に、機械購入などの費用を補助

区分	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
知っている	569	34.9%	221	60.7%	17	38.6%	210	35.1%	110	21.4%	11	10.2%
知らない	651	40.0%	92	25.3%	22	50.0%	259	43.2%	249	48.4%	29	26.9%
未記入	409	25.1%	51	14.0%	5	11.4%	130	21.7%	155	30.2%	68	63.0%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	

市の単独補助事業(3事業)の認知度についての問いである。全体では、周知不足が浮き彫りになった形で、いずれの事業も「知らない」が「知っている」を上回った。「知っている」が50%を超えているのは、『糸島市新たな担い手就農支援事業』の新規就農者50.0%、『糸島市新規就農者定着支援事業』の認定農業者50.8%、新規就農者59.1%、『糸島市農村地域活性化事業』の認定農業者60.7%だけである。

市では、広報紙や市ホームページはもちろん、JA糸島の農業振興連絡会議にも情報を提供し、農区長に情報を流してもらっている。また、農業機械・施設の事業者にも事業案内を送付し周知しているが、更なる周知策が必要である。

認定農業者においては、定例的に郵送による情報発信をしているため、3事業とも「知っている」のほうが多い結果となった。



## 【担い手の育成について】

問13 あなたは新規就農者に対して、どのようなサポートができますか？(複数回答可)また、下記以外であなたができる支援がありましたらご記入ください。

区分 サポート	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
農地の貸付	391	24.0%	63	17.3%	6	13.6%	143	23.9%	164	31.9%	15	13.9%
施設の貸付	35	2.1%	13	3.6%	1	2.3%	14	2.3%	5	1.0%	2	1.9%
機械等の貸付	89	5.5%	36	9.9%	4	9.1%	29	4.8%	15	2.9%	5	4.6%
技術の指導	191	11.7%	95	26.1%	6	13.6%	76	12.7%	12	2.3%	2	1.9%
機械操作指導	142	8.7%	79	21.7%	2	4.5%	51	8.5%	9	1.8%	1	0.9%
経営等の相談	85	5.2%	47	12.9%	6	13.6%	24	4.0%	7	1.4%	1	0.9%
農地・施設紹介	58	3.6%	29	8.0%	3	6.8%	22	3.7%	4	0.8%	0	0.0%
販路の紹介	58	3.6%	25	6.9%	6	13.6%	19	3.2%	7	1.4%	1	0.9%
その他	39	2.4%	5	1.4%	4	9.1%	13	2.2%	16	3.1%	1	0.9%
未記入	895	54.9%	149	40.9%	23	52.3%	327	54.6%	308	59.9%	88	81.5%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	
【「その他」の主な記載】	・グループや団体への推進加入 ・自分のことで精一杯				・雇用 ・農作業の手伝い				・品種の説明。それぞれのメーカーの特性及び試作の報告等			

新規就農者に対してできるサポートについては、全体として多いものから「農地の貸付」24.0%、「技術の指導」11.7%、「機械操作の指導」8.7%となっている。ただ、未記入が54.9%と半数以上あり、サポート体制の確立が大きな課題であることが分かった。

認定農業者は、「技術の指導」や「機械操作指導」などの支援が多く、販売農家や自給的農家では農地貸付が多かった。これは、問10の規模縮小等を希望する比率が高いことと関係していると推察する。

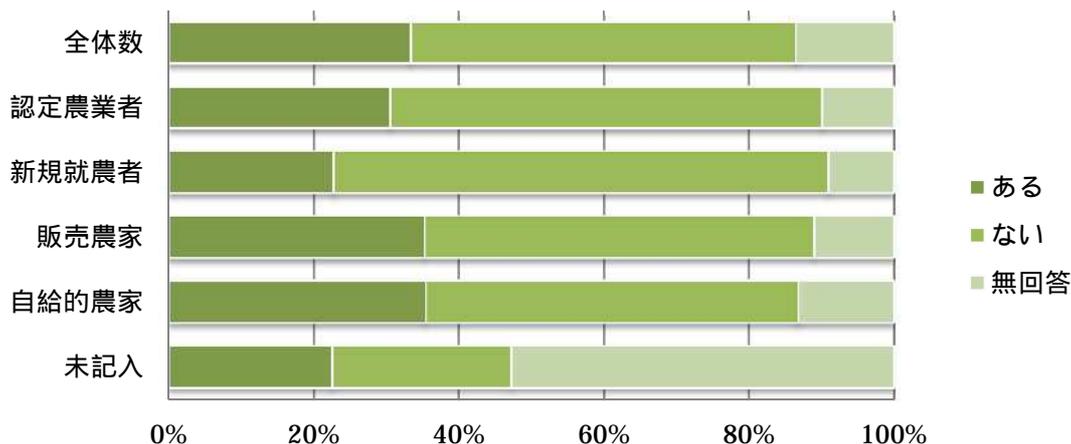
新規就農者は、経験年数が浅いほど人脈が薄く、サポートが必要である。そのため、その他の意見にあるように「グループや団体への推進加入」などの対策を講じ、担い手を確保する必要がある。



## 【耕作放棄地について】

問14 あなたの所有農地に、耕作放棄した農地はありますか？(1つに)

区分 耕作放棄地	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
あ る	543	33.3%	111	30.5%	10	22.7%	211	35.2%	182	35.4%	29	26.9%
な い	865	53.1%	217	59.6%	30	68.2%	322	53.8%	264	51.4%	32	29.6%
未 記 入	221	13.6%	36	9.9%	4	9.1%	66	11.0%	68	13.2%	47	43.5%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	



全体では、耕作放棄地が「ある」と答えた農家が、全農家の3分の1に当たる33.3%となっている。新規就農者は22.7%でその比率が若干少ないが、他の農家区分は全て30%を超えている状況である。

「ある」場合、そのようになった原因は何ですか？(複数回答可)

原因	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
高齢化による	174	32.0%	22	19.8%	4	40.0%	60	28.4%	74	40.7%	14	48.3%
借手がない	102	18.8%	11	9.9%	1	10.0%	33	15.6%	47	25.8%	10	34.5%
採算に合わない	146	26.9%	34	30.6%	2	20.0%	60	28.4%	44	24.2%	6	20.7%
農地条件が悪い	282	51.9%	70	63.1%	5	50.0%	123	58.3%	75	41.2%	9	31.0%
機械が入らない	112	20.6%	33	29.7%	2	20.0%	41	19.4%	33	18.1%	3	10.3%
鳥獣被害がある	195	35.9%	42	37.8%	4	40.0%	85	40.3%	58	31.9%	6	20.7%
その他	21	3.9%	3	2.7%	0	0.0%	10	4.7%	8	4.4%	0	0.0%
未記入	13	2.4%	2	1.8%	0	0.0%	4	1.9%	5	2.7%	2	6.9%
回答者総数	543		111		10		211		182		29	
【「その他」の主な記載】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忙しくて全部作れない</li> <li>・農業以外の仕事がある</li> <li>・農業をやめて、勤めに行き、休みに少し農業をしている</li> <li>・日照時間が短く、不適樹園地だった</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠い所に有るため</li> <li>・労力的に難しい</li> <li>・水田が湿地状態。暗渠排水が必要</li> <li>・大木が生じた(荒地)</li> <li>・作る気がない</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作不可</li> <li>・水源(水路)がない</li> <li>・農業用機械が修理出来ない</li> <li>・孟宗竹の陰で作物が出来ない</li> <li>・減反</li> </ul>					

耕作放棄地になった原因は、「農地条件が悪い」が51.9%と半数以上の農家が回答。次いで、「鳥獣被害がある」35.9%、「高齢化による」32.0%と続く。

「農地条件が悪い」は、認定農業者が63.1%と最も高く、全ての農家区分で第1位となっている。「鳥獣被害がある」は自給的農家を除き第2位。自給的農家の第2位は「高齢化による」で、第3位が「鳥獣被害がある」となっている。

特に中山間地に多い条件の悪い農地(狭小・不整形な農地、整備不良の農道・水路など)は敬遠され、「借手がない」につながり、結果として耕作放棄地になっていく。



問15 どんな支援があれば、あなたは耕作放棄地を再生できますか？(複数回答可)また、下記以外に方法があったらご記入ください。

区分	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
再生の費用補助	168	10.3%	49	13.5%	10	22.7%	68	11.4%	37	7.2%	4	3.7%
水路等の周辺整備	159	9.8%	42	11.5%	9	20.5%	67	11.2%	36	7.0%	5	4.6%
圃場整備での再生	103	6.3%	36	9.9%	5	11.4%	43	7.2%	15	2.9%	4	3.7%
農地の借手の紹介	88	5.4%	25	6.9%	3	6.8%	22	3.7%	35	6.8%	3	2.8%
適した作物の推奨	77	4.7%	22	6.0%	1	2.3%	32	5.3%	21	4.1%	1	0.9%
栽培への費用補助	42	2.6%	20	5.5%	4	9.1%	9	1.5%	7	1.4%	2	1.9%
鳥獣害対策の補助	140	8.6%	36	9.9%	6	13.6%	55	9.2%	38	7.4%	5	4.6%
鳥獣害対策セミナー	32	2.0%	8	2.2%	4	9.1%	10	1.7%	8	1.6%	2	1.9%
その他	45	2.8%	10	2.7%	1	2.3%	19	3.2%	15	2.9%	0	0.0%
未記入	1,185	72.7%	243	66.8%	27	61.4%	423	70.6%	394	76.7%	98	90.7%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	

【「その他」の主な記載】

- ・ 厳しい場所は耕作放棄した方が良いと思う。
- ・ 何も出来ません無理です。農家が生き残る為に耕作放棄をしますのです
- ・ 農地再生補助があっても、取りかかる資金はない
- ・ 水の排水設備
- ・ 耕作放棄地所有者に対しての強い指導
- ・ 再生するのではなく利用できる農地を確実に保護するのが効率的な話
- ・ 農地整備のときの制約事項の撤廃(自由に利用しにくい現状)

耕作放棄地の再生についての問いであるが、未記入が7割以上あり、いかに難しい課題であるかを伺い知ることができる。

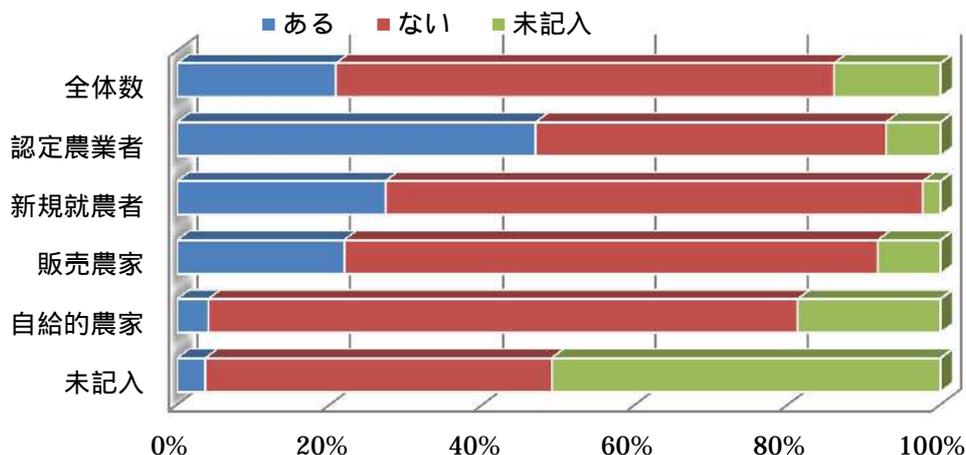
全体の回答は、何かが突出しているわけではなく、広くばらけているが「再生の費用補助」10.3%が最も高い。次いで「水路等の周辺整備」「鳥獣害対策の補助」。

新規就農者については、特に農地そのものの整備に対する欲求が強く「再生の費用補助」「水路等の周辺整備」「圃場整備での再生」で54.6%と、他の農家区分と比較しても、その数値は高い。

### 【雇用について】

問16 あなたの農業経営で、家族以外の雇用はありますか？(1つに )

区分	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
ある	339	20.8%	171	47.0%	12	27.3%	131	21.9%	21	4.1%	4	3.7%
ない	1,063	65.3%	167	45.9%	31	70.5%	419	69.9%	397	77.2%	49	45.4%
未記入	227	13.9%	26	7.1%	1	2.3%	49	8.2%	96	18.7%	55	50.9%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	



雇用をしている農家は、全体の約2割。認定農業者は、経営規模が大きいため47.0%で、半数近くの農家が雇用をしている。

次いで、新規就農者、販売農家の順で雇用している比率が高い。

「雇用している」場合、雇用形態と雇用人数は何人ですか？

区分 雇用の内容	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入		
	件数	比率・平均	件数	比率・平均	件数	比率・平均	件数	比率・平均	件数	比率・平均	件数	比率・平均	
常時雇用	農業者数	103	30.4%	80	46.8%	3	25.0%	11	8.4%	7	33.3%	2	50.0%
	雇用総数	459	4.5人	416	5.2人	4	1.3人	26	2.4人	11	1.6人	2	1.0人
	内外国人	36	0.3人	32	0.4人	0	0.0人	4	0.4人	0	0.0人	0	0.0人
臨時雇用	農業者数	234	69.0%	114	66.7%	9	75.0%	101	77.1%	8	38.1%	2	50.0%
	雇用総数	1,168	5.0人	583	5.1人	15	1.7人	548	5.4人	14	1.8人	7.5	3.8人
	内外国人	10	0.0人	6	0.1人	1	0.1人	3	0.0人	0	0.0人	0	0.0人
未記入	22	6.5%	7	4.1%	0	0.0%	8	6.1%	7	33.3%	0	0.0%	
回答者総数	339		171		12		131		21		4		

問16で雇用が「ある」と回答した339人のうち、常時雇用が30.4%、臨時雇用が69.0%となっている(複数回答あり)。常時雇用では、認定農業者が46.8%でもっと高い。臨時雇用では、販売農家、新規就農者、認定農業者の順で高くなっている。雇用がなければ、今の糸島の農業は維持できないことを示している。

雇用総数では、常時雇用が459人(うち外国人36人)、臨時雇用が1,168人(うち外国人10人)。最近では、外国人の雇用が目立つようになった。

ほとんどの農業経営の場合、季節に関係なく作付けされる品目以外、定植や収穫など作物によって繁忙期があり、時期的に作業が集中し、人手が必要となる。そのため、必要な時に作業をお願いする臨時雇用の比率が高くなっていると推測できる。



「雇用している」場合、今後の雇いをどうしたいですか？(1つに)

区分 今後の雇用	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
拡大したい	99	29.2%	66	38.6%	1	8.3%	28	21.4%	3	14.3%	1	25.0%
現状維持	211	62.2%	98	57.3%	11	91.7%	91	69.5%	9	42.9%	2	50.0%
やめたい	9	2.7%	3	1.8%	0	0.0%	3	2.3%	3	14.3%	0	0.0%
未記入	20	5.9%	4	2.3%	0	0.0%	9	6.9%	6	28.6%	1	25.0%
回答者総数	339		171		12		131		21		4	

雇用している農家の今後の意向に関する問いであるが、全体では、「現状維持」が62.2%と最も多く、次いで「拡大したい」の29.2%となっている。

認定農業者は、全体よりも「拡大したい」が多く、「やめたい」は少ない。

新規就農者は、「現状維持」が9割を超え、「やめたい」は皆無である。

販売農家は、「現状維持」が約7割、「拡大したい」が2割強となっている。



### 「雇用を拡大したい」場合、雇用形態と増やしたい人数は何人ですか？

区分等 雇用の希望		全体数		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
		件数	比率・平均	件数	比率・平均	件数	比率・平均	件数	比率・平均	件数	比率・平均	件数	比率・平均
常時 雇用	農業者数	69	69.7%	49	74.2%	1	100.0%	17	60.7%	1	33.3%	1	100.0%
	雇用希望数	182	2.6人	129	2.6人	5	5.0人	44	2.6人	1	1.0人	3	3.0人
臨時 雇用	農業者数	59	59.6%	41	62.1%	0	0.0%	16	57.1%	2	66.7%	0	0.0%
	雇用希望数	305	5.2人	215	5.2人	0	0.0人	81	5.1人	9	4.5人	0	0.0人
未記入		3	3.0%	2	3.0%	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
回答者総数		99		66		1		28		3		1	

雇用拡大希望の99人のうち、69.7%が常時雇用を希望。雇用希望数は平均2.6人となっている。臨時雇用は59.6%が希望しており、雇用希望数は平均5.2人となっており、いずれも認定農業者に雇用を望む人が多いのが分かる。

(新規就農者と自給的農家はデータ数が少ないため、比率の単純比較は困難。)

### 「雇用していない」場合、今後、雇用を考えていますか？(1つに)

区分 雇用の活用	全体数		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
考えている	101	9.5%	49	29.3%	14	45.2%	31	7.4%	5	1.3%	2	4.1%
考えていない	808	76.0%	98	58.7%	16	51.6%	333	79.5%	326	82.1%	35	71.4%
未記入	154	14.5%	20	12.0%	1	3.2%	55	13.1%	66	16.6%	12	24.5%
回答者総数	1,063		167		31		419		397		49	

現在、雇用していない1,063人への問いで、雇用を「考えている」は9.5%。新規就農者の45.2%が最も高く、認定農業者、販売農家と続く。

このことから、雇用の確保ができれば、規模拡大等につながるものと推測でき、そのための対策の必要性がうかがえる。



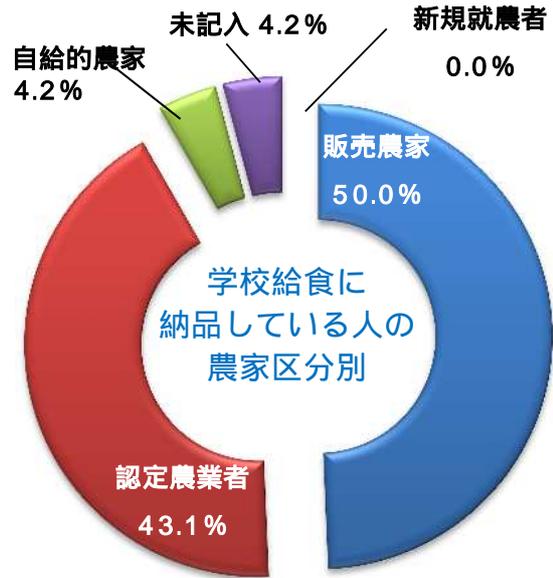
【地産地消・食育の推進について】

問17 現在、学校給食に農産物を納品していますか？(一つに )

区分	全体		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
している	72	4.4%	31	8.5%	0	0.0%	36	6.0%	3	0.6%	3	2.8%
していない	1,274	78.2%	289	79.4%	41	93.2%	494	82.5%	401	78.0%	49	45.4%
未記入	283	17.4%	44	12.1%	3	6.8%	69	11.5%	110	21.4%	56	51.9%
回答者総数	1,629		364		44		599		514		108	

小中学校の学校給食の食材として農産物を納品している農業者は、72件となっており、全体の4.4%にすぎない。

農家区分では、「している」と回答した農家の大半は販売農家と認定農業者であり、自給的農家も3件納入している。新規就農者には、納品している人はいなかった。



「納品していない」場合、その理由は何ですか？(複数回答可)

区分	全体数		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
納品しない理由												
仲間がいない	71	5.6%	20	6.9%	5	12.2%	24	4.9%	18	4.5%	4	8.2%
量の確保が難しい	257	20.2%	41	14.2%	10	24.4%	119	24.1%	78	19.5%	7	14.3%
品質確保が難しい	189	14.8%	21	7.3%	7	17.1%	78	15.8%	72	18.0%	10	20.4%
時間通りの納品が難しい	167	13.1%	42	14.5%	7	17.1%	78	15.8%	29	7.2%	9	18.4%
納品の手段がない	159	12.5%	46	15.9%	12	29.3%	66	13.4%	30	7.5%	4	8.2%
単価が安い	53	4.2%	15	5.2%	1	2.4%	23	4.7%	13	3.2%	1	2.0%
その他	177	13.9%	50	17.3%	5	12.2%	70	14.2%	50	12.5%	2	4.1%
未記入	378	29.7%	117	40.5%	8	19.5%	189	38.3%	193	48.1%	26	53.1%
回答者総数	1,274		289		41		494		401		49	

【「その他」の主な記載】

- ・1人農業で、定期出荷の自信がない
- ・稲作のみである
- ・花卉専業のため
- ・家庭菜園程度の規模だから
- ・個人で販売できる体制ではない
- ・学校用に特別には作れません
- ・給食は量や時間等の制限が多い
- ・時間がとれない
- ・納品できるだけ量を作っていない
- ・一品種を大量に生産していない
- ・配達する時間をもたない
- ・面倒だからやりたくない

- ・JA出荷のみ(共選出荷)のため
- ・市場出荷の為必要ない
- ・伊都菜彩で調達すれば手間が省ける
- ・今の販売で丁度良い
- ・安定した食材になるものがない
- ・学校は露地物の注文が主で、ハウスでは終わっていて物がない
- ・業者等を通じて納入しているかも
- ・納品する方を探しているのなら、当たって紹介は出来ると思う
- ・一人では無理
- ・全く考えていない

- ・納品したことがあるが、農産物の取扱が雑で残念だった
- ・給食への納品を考えたことがない
- ・以前納品した事があるが大変だった。今は保育園に納品している
- ・以前は納品していたが、学校からの苦情があり納品をしなくなった
- ・システム(条件や基準)が判らない
- ・条件や市場状況がわからないので、検討する余地がない
- ・納品方法を知らない
- ・出荷の年間計画があれば対応できる

全体では、高いほうから「量の確保が難しい」20.2%、「品質確保が難しい」14.8%、「時間どおりの納品が難しい」13.1%の順となっており、「単価が安い」を理由に挙げた人は少ない。

「仲間がいない」は71人で5.6%。これは、仲間の問題が解決すれば、“納品する意思あり”という見方もできる。

農家区分での第1位は、認定農家と新規就農者が「納品の手段がない」、販売農家と自給的農家は「量の確保が難しい」であった。また、認定農業者の「品質確保が難しい」と自給的農家の「時間どおりの納品が難しい」は、他と比べて低い数字である。

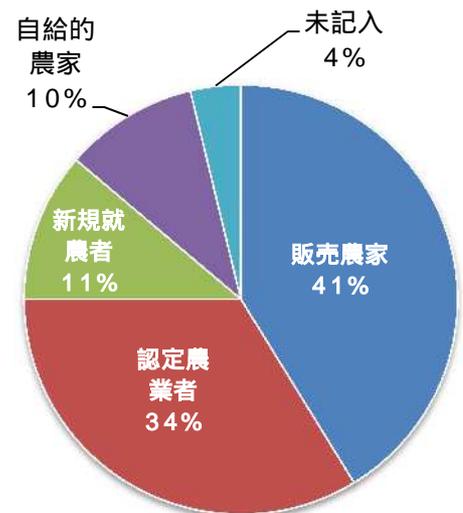
「納品していない」場合、納品する意向はありますか？(一つに )

区分	全体数		認定農業者		新規就農者		販売農家		自給的農家		未記入	
	件数	平均	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率	件数	比率
納品の意向												
意向がある	80	6.3%	27	9.3%	9	22.0%	33	6.7%	8	2.0%	3	6.1%
意向がない	1,041	81.7%	221	76.5%	30	73.2%	410	83.0%	348	86.8%	32	65.3%
未記入	153	12.0%	41	14.2%	2	4.9%	51	10.3%	45	11.2%	14	28.6%
回答者総数	1,274		289		41		494		401		49	

全体で、80人(6.3%)が納品の意向を示している。特に、新規就農者は9人ではあるが納品意向があり、比率では22.0%と他の農家区分より意欲は高い。

これら全ての農業者が学校給食への納品者となれば、既に納品している72人と合わせ152人となり、一気に2倍以上に増え、地場産率の向上にもつながる。市として、いかに支援するかがカギとなる。

納品意向のある人の農家種別



「意向がある」場合、学校に紹介したいので、よければ氏名を記入してください。

項目	全体数	認定農業者	新規就農者	販売農家	自給的農家
承諾者	26	10	2	12	2

学校給食への納品の意向がある人で、実際に氏名を上げてくれた農業者は26人で、納入者増に向けて早急に対応していく必要がある。



## 【自由意見・要望について】

### 就農・営農について

営農	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に農業をしている人にも新規就農者のような手厚いサポートがあればよい。</li> <li>国の政策は法人・担い手への農地集積を目的とした補助事業が多い。将来的には小・中規模農家は経営方策も考えなければいけないが、生活を維持できるのか不安。</li> <li>認定農家に対してだけの補助事業は差別。頑張っている産直に出荷している高齢者が持続して経営が出来るよう考えるべき。</li> </ul>
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>60歳以上の農地所有者で農業経験のない人を対象に有効活用するための研修会等開催。</li> <li>視察や勉強会、説明会があるが情報が回って来ないので参加できていない。</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業の内容を前もって生産者に確実に伝えて金額との共通点など、詳しく教える事。</li> <li>施設野菜を営農しているが、施設機械が古くなり新しく替えなければいけない。しかし自己資金だけでは難しいので、国・県・市にどのような補助があるのか情報がほしい。</li> <li>農区内の若い農業者と交流を深めるため、年1回は今後の事について話をしている。そんな時に補助事業等情報をしてもらえば助かる。</li> </ul>
後継育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>親元就農も費用がかかる。新規就農者だけでなく、親元就農にも育成費をお願いしたい。</li> <li>新規就農者には支援が多いが後継者は支援らしきものがない。何か支援ができないか。</li> <li>新規就農者の支援に異論はないが、それ以上に、すでに就農している後継者への強力な支援が必要。施設栽培導入時の補助率を70%に上げるなど、導入促進を図る必要がある。</li> <li>担い手の育成で後継者指導をしてほしい。</li> <li>担い手育成には技術指導者の負担軽減が必要。</li> </ul>
支援・補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>食物を作っているのだから、費用等の補助を手厚くしてほしい。そうすれば新規就農者が増え、より安定・充実した農作物が提供できるようになる。</li> <li>機械の急な故障など、本当に支援してほしい場合のすぐに対応できる補助事業がない。</li> <li>農家でなく、農業をしたいという人に支援があったらいい。情報不足でよく分からない。</li> <li>新規就農に関する書類が多すぎる。申請書等書類は少なく簡単にしてほしい。</li> <li>農業経営に関する経費(肥料、農薬、出荷経費)が高く採算が合わないので補助を希望。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模農家でも安定した経営ができる「糸島ブランド」の作物を工夫し指導してほしい。</li> <li>農業とアウトドアを連携させた地域活性化のための事業や都会住民との体験をとおした自然保護事業、宿泊施設の設置、加工品開発などをする小規模農家などへの補助。</li> <li>補助金目当ての就農者は必死さが足りない。補助は税金が勿体ないので辞めた方がよい。</li> </ul>

### 機械等の補助について

代行・リース	<ul style="list-style-type: none"> <li>田はあるが、農機具がないため米作りができない。自作地の米を食べたい。一連の機械による作業代行者がいれば助かる。自家米として作った他は販売することになる。</li> <li>農機、主にトラクターなどのリース・貸出制度があれば放棄せずに済むのではないかと、ニーズもあると思うし、荒廃農地の防止にもつながる。</li> <li>高齢の就農者が、年に数回しか使用しない農機具を個人で揃えるのは負担が大きい。農機具のリース事業の実施による経費節減の支援ができないか。</li> </ul>
--------	--

### 農地の活用について

管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>休耕地を地域の高齢者に自由に耕作してもらおうと荒地が減り、高齢者も元気になる。</li> <li>経営は苦しいが、再生費用を考えると耕作放棄はできない。中山間地の棚田は大規模化に適さず荒れていく。耕作放棄地にならないよう維持管理が可能な支援を期待する。</li> </ul>
----	--

貸借	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件の悪い農地は利益が出ない。それでも、地域の人から依頼されると断れず作業口を生じさせている。今後、自分の代わりに耕作する人がいないと、誰も作らなくなる。</li> <li>・優良農地の提供、若手農業者の規模拡大に目をかたむけてほしい。</li> <li>・貸賃は無料で良いが固定資産税は負担してほしい。</li> <li>・耕作放棄地の借り手紹介や斡旋等を含め、借りたい人に農地の紹介をしてほしい。</li> <li>・演習農園として、九大や西短大などへの貸出しについて、市で検討できないのか。</li> </ul>
----	---

### 雇用について

雇用派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁忙期に（ボランティアや研修生など）低賃金で手伝ってくれる人材があれば経営が継続できるので、人材派遣システムを作ってほしい。</li> <li>・雇用したいが人員不足なので紹介してほしい。</li> <li>・臨時雇用の人材確保が難しくなっており、支援体制を作ってほしい。</li> </ul>
------	---

### 鳥獣被害について

駆除・作物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地の拡大防止のため、イノシシとアナグマ、アライグマの駆除について市を挙げて行い、行政が主体となって鳥獣被害に対する根本的対策を検討してほしい。</li> <li>・サルやシカ（本市に被害はないが）についても、全国的な対策と環境破壊の現状について広報し、多くの人に理解してほしい。</li> <li>・鳥獣害に遭いにくい作物の推奨（品目・販路等）をしてほしい。</li> </ul>
-------	--

### 直売所・加工品開発や販売について

イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直売所の集客数と販売額を伸ばし、糸島で糸島ブランドの食材を購入してもらうため、市が積極的に直売所のイベントを推奨・支援する。</li> <li>・直売所毎に新たなイベントを考案し、実施。また、近隣の事業者や観光業者と連携した地域と連携したイベントへの支援。</li> </ul>
加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直売所などの残品をカット野菜など、加工につながる支援ができないか。</li> <li>・第6次産業で、甘夏や清見、はるかなどでジュース加工に取り組みたいが、加工原料の流通単価を維持できるのか不安で思い立てない。</li> </ul>
出荷・集荷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの直売所が午後には品物がなくなり、お客の要望にできていない。意識改革が必要。</li> <li>・高齢者になるので、直売所から家まで、販売用の野菜を集荷に来てほしい。</li> <li>・少量だが直売所への出荷を希望している。しかし、出荷用具（袋や商品を閉じる機械等）に、どの程度の費用が必要なのか分からないし、やりかたもわからない。</li> <li>・直売所への新規参入は厳しいと聞いた。現在は自家消費のみで、廃棄する農産物もあり、無駄が多い。平等性のある体制を希望する。</li> <li>・直売所の活性化により、出荷する高齢者の生産意欲が増大し、健康維持につながる。</li> </ul>
設置・拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直売所に地元産を使ったレストランを併設し、雇用の増加や集客力、地元産のアピールをしたい。そのためには補助金の活用や規制緩和、行政の支援が必要となる。</li> <li>・地域に新たな加工所や直売所を作りたいが、規制が多くて難しい。</li> <li>・地域に店舗がなく、農産物の販売所があったら非常に助かります。高齢化で車に乗れなくなる人が増えるので、買物弱者対策にもなります。</li> <li>・小さな直売所が糸島市にたくさんあってもいいのでは。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産直に出荷しても出荷した物の20%程度しか売れない状況。また、安売り競争で収益が上がらない。価格統一化とは言わないが、適正価格での販売推奨を要望。</li> <li>・市内直売所のネットワークを作る（情報メール発信や共通のポイントカードの活用）。</li> </ul>

## 耕作放棄地について

法人化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地の規制緩和。行政とJAで生産法人を設立し若い人(後継者)を雇用してほしい。</li> <li>・高齢化は進み後継者はいない。よって放棄地は増える。やっていることはこれまでの延長に過ぎぬ気がする。いっそ法人化を推進し、作物のブランド化を図るべきと思う。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地権者と連絡が取れない田畑が存在し、石垣が崩れたり水路が途切れたり周囲に影響がある。そんな土地の管理体制が欲しい。</li> <li>・耕作放棄地は認定農家に耕作させるべき。</li> <li>・耕作放棄地は農機の購入補助があれば再生できる。</li> <li>・耕作放棄地の再生は、地域の総合的なマスタープランの策定が必要。農業だけを考えていてはアイデアが出てこない。</li> </ul>

## 環境保全について

集落	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手間替え(結:ゆい)などの制度(システム)があれば利用したい。</li> <li>・人数が減少しているからこそ共同体で歩んだ方が良い。</li> <li>・稲作農家への支援。水田は環境保全、地域共同体の存続、農村文化の継承等重要な役割を果たしている。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ゴミを堆肥化し、ゴミの減量と健康に益する農業(農薬、化学肥料を極力使用しない)を進めてもらいたい。</li> <li>・地域の動物、植物、風景等を調査し大切にするための冊子づくりに支援してほしい。</li> </ul>

## その他

その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を教えてください。</li> <li>・食育については支援そのものより、小学校のころより「食」の大切さをもっと教えてください。国産の食物は、国土保全にもしっかりつながっていると思います。</li> <li>・糸島市は玄海原発から県内で唯一の30km圏内。農林漁業にとって再稼働は認められない。行政として反対の行動をお願いしたい。</li> <li>・市職員が直接農家を見て回ったら現場がよく分かる。何が必要なのか現場を熟知すべき。</li> <li>・認定農業者の基準が甘い。認定基準を見直し本当の担い手を認定すべき。</li> <li>・市役所から見る農家とは認定農家と新規就農者だけですか。何の対象もならず、こつこつと農地を守っている農家は、農家ではないということですか。</li> <li>・新規就農補助金を受けた人のうち、5年後に農業を続けている人はどのくらいいますか。その期間内でやめた人は、補助金の返納はしなくていいのですか。</li> <li>・糸島市新たな担い手就農支援事業の対象となる退職後の新規就農者は、それ以前は二種兼業農家だったのではないか。自営業の人は対象にならないのか。この矛盾を解決してください。</li> <li>・農家定年制度等があればいい。</li> <li>・市街化農地の有効活用(アパート以外で)の推進。</li> <li>・空家対策(新規就農支援等と併せて賃借し易い制度をつくる)。</li> <li>・結婚相談の強化(仲人制度の復活、新たな制度)。</li> <li>・ブランド農作物の考案や作ってみたい作物の紹介、アドバイスの実施。</li> </ul>
-----	---

同様または類似した意見・要望等は、整理・調整をして掲載しています。  
糸島市以外の組織などに対する意見・要望については、割愛しています。